

## FFグローバル 学習の流れ



## 文部科学省研究開発学校指定

教科横断STEAM型の新教科「FFグローバル」を設定し、各教科間をつなぎ、教科横断STEAM型の探究カリキュラムを開発し実践します。その際、学校運営協議会と協働体制を構築し、地域社会の課題を探究するカリキュラム開発と検証を行い、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の学習の基礎となる資質・能力、および主体的な学びの育成を目指しております。

## 1学年 FFグローバル

金川の森ミニ探究の感想

- ・ ドングリの殻斗が多く見つかり、堅果はあまりなかったことから、ドングリを食べる動物がいることが分かった。
- ・ 上を見上げたとき、木の葉の形や種類の異なるものがたくさん見られた。普段私たちが住んでいるところよりも多くの土壌動物をみつけた。



7月4日「笛吹ワークショップ」

1学年全生徒を対象としたワークショップを開催しました。このワークショップには、14名の講師をお招きして、地域の課題とその解決に向けた取り組みについて理解を深めることができました。1学年の生徒は、これからそれぞれの興味・関心に応じた探究テーマを設定し、その解決に向けた取り組みが始まります。



笛吹ワークショップの感想

雨宮さんの今までにやってきたことや、行動力がすべての活動の原点となっていること、自分なら何が人のためにできるのかを考えたり自分で判断して進んでいくことが探究活動においてとても大切になるというお話が心に残った。他にも思いさえあればどんなことでもできるという言葉にすごく感銘を受けた。

## 2学年 FFグローバル

設問 12 この授業を通じて、あなた自身が最も身についたと感じるGPを一つ選んでください。



習得力：14.7%  
理解力：15.3%  
思考力：26.0%  
表現力：7.3%  
継続力：2.7%  
参画力：16.7%

最も身についたと感じるGPは「思考力」！  
(26.0%)  
次いで「参画力」でした  
(16.7%)

設問 9 探究学習を進めるうえで、地域の方との交流は重要だと思いますか

非常に重要 60.5%  
重要 37.5%  
あまり重要ではない 2%  
全く重要ではない 0%

地域との交流が重要だと感じている生徒は  
**90%以上!**



2年生 FFグローバルを通じて、変わった・成長したと感じること

- ・ これまで何かと1人でなんとかしようという考えだったがグループでの活動の楽しさを知り、前よりも多少仲間に頼ることが増えたと思う。
- ・ 人の話を聞いてそこからなにか案を出したり、応用して広げたりすることができた。
- ・ 地域の方々と交流するのは大変で難しいことだと思っていたが、実際にお話を聞いてみて面と向かってお話をすることは大切でいい経験になることがわかった。
- ・ これまでは、自分の考えをある程度の人だけにわかってもらえる説明が多かったけれど、FFGの授業を通して、多くの人全員にわかりやすい説明や発表をすることで自分だけでなく他者にも理解されるような言葉で伝えることの大切さについて考えるようになった。

2年生 地域メンターから教わったこと

- ・ 自分たちに「ご機嫌力」のことや「0から1」はないことを教えてもらいました。また、食品開発のアドバイスを貰うことが出来ました。例えば「ある物×ある物」という言葉ももらいました。
- ・ パラの講演会を開いてくださりパラについての歴史と種類と食用種等様々なことを教えてもらいました。
- ・ 旅館協同組合の人たちの話を聞く機会を作ってくれた。フォトコンテストの広告を掲載してくれる。自分たちの取り組み内容の改善点を教えてくれた。

## 笛吹高校マシュマロチャレンジ

4月11日、笛吹高校の1年生から3年生まで各クラスでマシュマロチャレンジを実施しました。このチャレンジでは5～6人のグループで協力し、パスタとテープを使って高い塔を作ります。一番高いポイントにマシュマロを刺したチームが勝ちなのですが、マシュマロの重みでうまくはいきません。生徒たちはお互い案を出し合ったり、パスタを支え合ったりしながら、楽しく活動していました。共通の目標があることで会話が弾み、新しいクラスの中でのアイスブレイク・チームビルディングにつながりました。



## 笛吹市「移住定住」促進パンフレット作成協力

昨年のFFグローバルの授業を受けた生徒の中から有志を募り、笛吹市「移住定住」促進パンフレットの作成に協力しました。笛吹市で移住担当をする雨宮様からのご提案で、パンフレットのデザインについてのアイデア出し、FFグローバルで取材した記事の提供、表紙のモデル等様々な形でパンフレットの作成に関わることができ、編集に向けた担当の皆様や、協力する地域の方々の想いに触れる非常に貴重な機会となりました。



## FFグローバル「ももりん自販機プロジェクト」

FFグローバルの授業で、笛吹インターからイエローハットに向かう通りを活性化しようと始めたプロジェクトです。学校運営協議会山本様をメインターにお迎えし、地域の方々との目標の実現に向けて活動を続けています。昨年度末の3月には、「みさかの湯」を会場とした「ぶらっとプチマルシェ」に参加し、地域の方々と交流することができました。



### 地域学校協働活動推進員等 奈良千尋

地元をこよなく愛する大学4年生。

高校2年次より山梨県の地域活性化に向けたボランティア活動を始め、現在は笛吹市でも学生団体を立ち上げ活動中です。母校である笛吹高校の探究活動に関わることができて嬉しく思います。

これまで活動してきた中での繋がりやノウハウを活かし、楽しく！明るく！生徒の皆さんが、地域の方々との協働を果たせるようにサポートします。



### 協働活動リーダー 三枝則子

笛吹市御坂町在中。

普段は本業の傍ら任意団体を設立しボランティア活動をしています。その御縁から、生徒の皆さんに関わらせていただいておりますが、学校と地域の連携や、地域コミュニティを繋ぐ役割の重要性を実感しました。

「地域のこどもは地域で育てる」その為には地域住民と学校が一体となる事も大切だと思います。微力ではありますが、お役に立てるよう頑張ります。



### 協働活動リーダー 井上銀河

地域学校協働活動を通して、地域の高校生の存在がいかに大切が実感しました。高校生が主体となって地域の方と協力し、問題を解決に取り組むことによって様々な視点の改善点やアイデアが生まれ、地域に大きな影響を与えることができる力があると感じました。また高校生のアイデアには今までにはなかった驚きがありました。今後も生徒の力になるようにサポートを行い、地域のために活動することに達成感や楽しさを感じてもらえるように頑張っていきたいと思っています。



次回の発行は12月  
「総合的な探究の時間」  
特集です



笛吹高校  
ホームページ  
QRコード

発行 山梨県立笛吹高等学校  
研究開発係

〒406-0031山梨県笛吹市石和町市部3番地

TEL:055-262-2135 / FAX:055-262-6381



# 「地域とともにある学校づくり推進 フォーラム2024」授業見学デー 授業実施報告

研究開発係

DATE : 12 JULY, 2024

## FFG II 「探究コンペに向けてブラッシュアップしよう」

FFGIIの公開授業が実施されました。

生徒たちは、自分たちが見出した課題を解決する方法についてプレゼンをして、いつもお世話になっているメンターの方々から助言をいただきました。視察には、国会議員赤池様、堀内様、笛吹市長山下様、山梨県教育長降旗様、全国よりおよそ100名の方が来校されました。

授業後には、視察の皆様との意見交換会があり、生徒に向けたご質問やご感想だけでなく、今後の学習に向けたご助言もいただくことができました。



**【具体策】** **女性**

【対象】10～20代の女性  
【実践の内容】  
PARを使った洋菓子の開発  
【この実践を選んだ理由】  
2023年の「10代～20代の昨年流行したと思う食べ物・スイーツ」というデータで、昔から洋菓子が好きだったので10～20代に刺さるのは洋菓子だと思い、手軽に食べやすいという利点があることから、笛吹市の花のPARを使った洋菓子を開発すれば、商品としてのインパクトも強いので興味を持ってもらえると思ったからです。  
※「パウンドケーキ」「シフォンケーキ」を製造する計画を立てています。



## 5 課題解決の実践

- ① 蛍光反射板の設置  
— 警告用ポスターの再製作



- ② 認知システムの設置  
— 「SchoolMy」さんとの共同開発



## 子どもたちの外遊びの機会を増やすには

～公園の場所や遊具を地やそう～



### テーマ設定の理由

子どもたちの外遊びの機会を増やすために外遊びの楽しさを伝えたいから

今年度は、5クラス35グループがそれぞれ地域の課題を見出しその解決に向けた取り組みを実施していきます。



## 総合的な探究の時間 「"届けよう服のチカラ"プロジェクト」ワークショップ



普通科は、「総合的な探究の時間」で、ファーストリテイリングがUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とともに取り組む、小・中・高校生が対象の参加型の学習プログラムに参加しています。7月12日は、ユニクロより講師をお招きし、「"届けよう、服のチカラ"プロジェクト」ワークショップが行われました。

# Inquiry Based Learning

研究開発通信Vol.2

総合的な探究の時間活動報告



## UNIQLO × FUEFUKI HIGH SCHOOL

### 届けよう「服のチカラ」プロジェクト

#### 活動内容

2学年普通科はユニクロ・ジーユー「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加しました。このプロジェクトは、ユニクロ、ジーユーを展開する株式会社ファーストリテイリングと難民の保護・支援に取り組んでいる国連機関のUNHCRがパートナーシップを組んでいるプロジェクトです。家庭で不要となった子ども服を回収し、難民の方へ届けるプログラムであり、SDGs（持続可能な開発目標）の観点から、服のリサイクルや再利用の重要性を学び、実践してきました。本校生徒が保育園児・小学生・中学生に向けて服のチカラプロジェクトについて、プレゼンテーションを行い、難民・服のチカラについて触れ、環境に優しい取り組みを紹介し、服の回収ボックスを設置して、リサイクル活動への協力を呼びかける活動をしました。



石和東こども園 訪問



石和中学校・浅川中学校 訪問



放送・動画での呼びかけ



積極的にこの活動に取り組んでもらうために、参加してくれた中学3年生のみんなに実際に服の回収ボックスを作成してもらった。楽しい時間になってよかった。初めての中学校訪問で緊張したけど聞いてくれている生徒さんたちを巻き込むことで、雰囲気がよくなり、このプロジェクトに積極的に参加してくれることが分かった。(2年 飯盛耀太)



児童が洋服を楽しく入れられる回収ボックスを作した。回収ボックス一杯になっているのを見て、とても嬉しかった。ご協力ありがとうございました。(2年 間瀬結梨)

集まった服を仕分けして、丁寧に梱包作業をした。難民の方へ無事に届きますように。と願いながら発送の日を迎えられてよかった。(2年 向山陽梨)





# 先生も学び続ける

上智大学総合人間科学部教育学科教授 奈須正裕 先生「個別最適な学びと協動的な学び」講演会の様子

「生成AI実践研修会」、「探究をよりよくする研修会」など夏休みや空き時間を利用して、先生も研修に取り組みました。

## かくれんぼ上手な後遺症 高次脳機能障害

事故による脳のけが、脳卒中などで脳が障害を受けると、脳の働きが正常に戻らない場合があります。これを高次脳機能障害（HCF）といいます。中高生が事故や病気によって脳に障害を受けると、学習や生活に大きな影響を及ぼす可能性があります。

**高次脳機能障害の主な症状**

- 記憶障害: 学習した内容を覚えられない、新しい情報を覚えられない。
- 注意障害: 授業中に集中できない、作業中に気が散る。
- 実行機能障害: 計画を立てられない、時間管理が苦手。
- 情緒障害: 感情のコントロールが難しく、イライラしやすい。
- 社会行動障害: 集団生活でのルールを守れない、コミュニケーションが苦手。
- 視覚空間障害: 図形や空間の理解が苦手。
- 失読症: 読んだ文章の意味がわからない。
- 失算症: 計算が苦手。

**高次脳機能障害の主な原因**

- 脳血管障害: 脳卒中、脳出血、脳梗塞。
- 外傷性脳損傷: 交通事故、転倒、スポーツ事故。
- 感染症: 脳炎、髄膜炎。
- 腫瘍: 脳腫瘍。
- 中毒: 薬物中毒、アルコール中毒。

山梨県 高次脳機能障害者 支援センター

山梨県高次脳機能障害者支援センターと本校美術部、任意参加者と一緒に高次脳機能障害の啓発ポスターを制作しました。



令和6年度は、美術部と総合学科国際系列が「アートマイル」事業に参加。リトアニアの高校生と一緒に「SDGs15」「森の豊かさを守ろう」について、一緒に考え、二校協働の絵画制作をしています。



**2024年10月**  
春日居中学校との交流授業  
笛吹高校の生徒が春日居中学校の「さかしたクエスト」（総合的な学習の時間にアドバイザーとして参加しました。中学生の探究学習に影響を受けて、高校生の意欲も向上したようです。



### 県内高校生による探究発表交流会

探究発表

12月26日（木）～27日（金）  
12:00～13:00 開場  
13:30～14:30 発表  
15:30～16:30 発表（奥日と木）

会場：都留キャンパス 第2ホール  
〒400-8507 電話：055-262-2135  
山梨県立高等学校 事務局

内容：各校生によるポスター発表

※高校生が1年間で取り組んだ探究発表大会の発表作品を展示いたします。



**2024年10月**  
新潟県立中条高校との交流授業  
中条高校の皆さんが「FFグローバルII」の授業に参加し、地域の課題解決について一緒に考えてくれました。



「FFグローバル」では今年度、1年生48チーム2年生35チームが地域の様々な課題解決に取り組みました。



写真上  
笛吹市「のーと」PR動画撮影に協力している様子

写真下  
自転車盗難防を呼び掛けに  
参加した方々と笛吹高校の生徒

**2024年12月**  
県内高校生による探究発表交流会  
甲府市にある「岡島百貨店」催事場で実施された「探究発表交流会」に本校より5チームが参加しました。都留高校、甲府西高校の生徒たちと交じって、初めて経験する校外での発表は少し緊張の面持ちでしたが、来場して下さった方に探究活動の発表をしていくうちに、会話も弾むようになりました。

H発行 山梨県立笛吹高等学校 研究開発係

〒402-0006  
山梨県笛吹市石和町市部3  
TEL:055-262-2135  
FAX:055-262-6381

3月14日（金）には「笛吹高校探究発表会」を実施します。詳細はHPをご確認ください。



# 高校生世界農業遺産サミット特集



### 高校生 世界農業遺産 サミット

多くの出会いと対話を重ね  
地域をよりよくなる力をつけよう

山梨県立笛吹高等学校  
2025年1月22日（水）



2025年1月22日（水） 笛吹高校

県内外の高校生たちが、探究活動の成果と成長を語り合い、地域の未来について「世界農業遺産」を題材に語り合いました。

### 【基調講演】



農林水産省、石堂和佳子様に「世界農業遺産が持つ価値と未来へのアクション」と題して基調講演をしていただきました。



### 【招待校発表】

徳島県池田高校、静岡県静岡農業高校、本校果樹園外科3年生が、世界農業遺産を探究した成果を発表してくれました。基調講演の理解をより一層深めることができました。



## ミライを見つめる セッション



「ミライを見つめるセッション」では、生徒達が身につけてきた力を活かして、世界農業遺産をよりよくなるにはどうしたら良いか、アイデアを出し合い、共有する取り組みが行われました。

## オンライン班も活躍



昨年は実施しなかったオンラインでしたが、オンライン班の生徒たちは、京都大学大学院の学生や、新潟県中条高校の生徒の皆さん方との親交を深めることができました。



## 探究活動を振り返るセッション



「探究活動振り返りセッション」では、生徒達がこれまで取り組んできた探究活動をスライドにまとめ、一人一人自分の取り組みの発表を通して省察をしました。1人の発表時間は7分、3分の質疑応答を経験して、自分たちが身につけてきた力を再確認することができたようです。



### 三市合同開催

「峡東ぶりこらーじゅ」への参加



「高校生世界農業遺産サミット」を終えた1月、2月9日、3月15日に行われる「峡東ぶりこらーじゅ」に本校より3名の生徒が参加しています。地域の良さを活かして世界農業遺産をより良くするにはどうしたら良いか、ワークショップを通じて地域を共創する取り組みで、本校生徒も活躍しています。

## 高校生が想像する「ミライ」

ワークシートにつづられた高校生が想像する「ミライ」を紹介します。素敵な未来の訪れを待ち望む声がたくさんありました！

- ・自分が育った地域の伝統が世界に広がっている世界
- ・みんなが協力し合って、お互いの意見を尊重しあえる世界
- ・地域の魅力を地域全体で発信していく世界
- ・自分たちが後継者になり次世代につないでいくミライ
- ・分かりやすく、いいアイデアによって豊かに暮らせるミライ
- ・機械を活用し効率を重視した農業や人がやる仕事を残しつつ機械と共存して生活できる未来

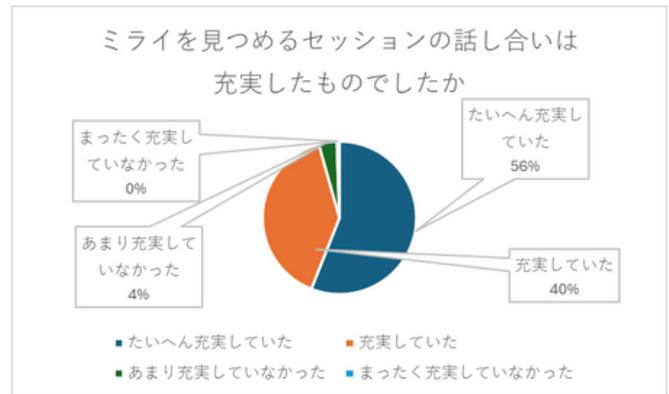
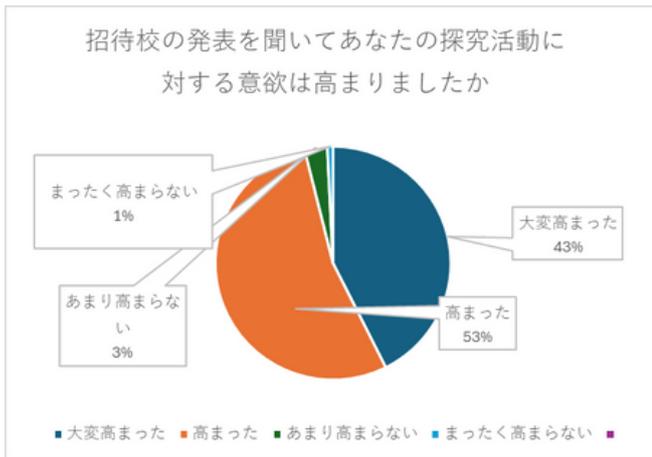
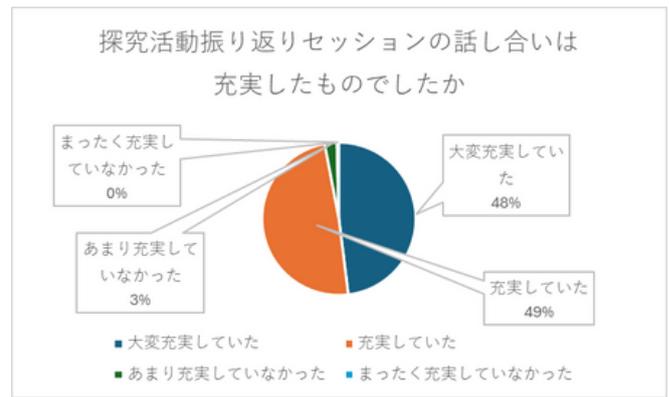
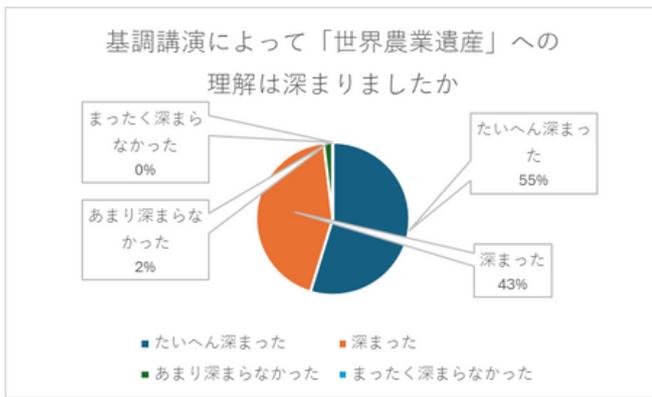
## 山梨県立笛吹高等学校 研究開発係

☎ 055-262-2135

🌐 [www.subarashiisaito.co.jp](http://www.subarashiisaito.co.jp)

📍 406-0031 山梨県笛吹市石和町市部3

# 生徒のアンケート集計（1・2年生）



1日の長丁場でしたが、意義深いものだったことが読み取れます。

## 【 生徒たちの感想 】

- ・他校の発表の取り組みや実践した内容のスケールに驚いた。
- ・サミットを通して農業と自分たちの探究課題の関連性について考え、探究課題に対してより考えを深めることができた。
- ・他の県の人や友達の間でいろいろな取り組みを聞くことができて楽しかった。
- ・茶草方法という静岡の茶とわさびの発表内容がとても面白くてよかったです。
- ・クラスで司会をして、とても緊張したがすごくいい経験になった。
- ・世界農業遺産は時代と共に変化していく、生きる遺産だという言葉が心に残った。

## 来場者のアンケート結果より・・・

### ◎高校生◎

- ・自分の学校では行っていない活動が多く、改めて学びを深めることができとても良かったです。様々な内容があり、それぞれの考え方が良く、楽しかったです。
- ・これからの未来を見据えて、皆と初めましてでありながらも、意見交換をして深く考えることができ、とても貴重な経験になりました。

### ◎一般の方◎

- ・生徒が世界農業遺産について知る機会になったと思います。今年の「×農業遺産」に期待しています。
- ・こうした子どもたちの主体的な学びが今の時代、大切だとあらためて感じました。

# 3 学年 「総合的な探究の時間」 R6.10.8～R7.1.21

## ～生成AIを使ってみよう～

3 学年の「総合的な探究の時間」では、10月からの全12回の授業で生成AIについて学びました。株式会社 YSK e-com より講師の方に来ていただき、グループで実際に生成AIを使って体験しながら学んでいきました。



第1回…AWSによる講演「アマゾンのイノベーションを支えるカルチャー」  
第2回～第5回…様々な生成AIを使ってみよう  
「チャットを使って情報収集」「文章生成」「要約」「校正」「画像生成」など、  
様々な種類の生成AIを使ってみました。「チャット」で生成AIに質問するのが特に使いやすかった様子。

また、生成AIを使う際のリスクやモラルについても学びました。



第6回～第10回…グループワーク

グループでテーマを決め、AIを活用しながらテーマに沿った調査を行いました。  
発表に向けて資料作成を行い、資料作成でもAIを利用できる場所はAIを使ってみました。



←生成AI（チャット）を使って  
アイデア出し

出たアイデアを  
グループで吟味しながら  
付箋に書いて貼っていく→



第11回…クラス内で発表

第12回…全体発表会



全体発表会の様子



作成した発表スライド。画像生成はAIによる



画像生成の失敗例。ほうとうが生成AIに伝わらず、焼きそばの画像になってしまった

### グループワークで学んだこと・感想（生徒のコメントより）

- ・AIが作業の効率化に大いに役立つことを実感しましたが、AIに任せきりになると内容が間違えていることがあるので人間の視点での調整が重要だと思います。今後はAIは補助的な役割として使い、AIを有効に使っていくとともに、AIをどのような用途で使えるか探究していきたい。
- ・実際に生成AIを使ってみると、少しの指示だけで多くの情報を得ることが出来た。詳しく指示を打ち込むほど、それに合わせて目的に合った情報が返ってくるため、かなり便利だと感じた。
- ・条件を絞っても、AIを使っても無理なものはない。AIからの情報を自分たちがどう受け取ってどう使っていくのが大切だと思う。アイデア出しが重要！
- ・同じテーマでも、生成AIに入力する言葉で違う発表内容で、見ていておもしろかった。

発行：山梨県立笛吹高等学校 研究開発係

〒402-0006

山梨県笛吹市石和町市部 3

TEL: 055-262-2135

FAX: 055-262-6381